



平成 18 年 10 月 31 日

各 位

上 場 会 社 名	ニッシン債権回収株式会社
代 表 者	代表取締役社長 天 野 量 公 (東証マザーズ コード番号：8426)
問 合 せ 先	執 行 役 員 山 口 達 也 経 営 管 理 部 長
電 話 番 号	(東京) 0 3 - 5 3 2 6 - 3 9 7 1
当 社 の 親 会 社	NIS グループ株式会社
代 表 者	代表取締役社長兼 網 屋 信 介 共同最高経営責任者 (東証第一部 コード番号：8571)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、平成 18 年 5 月 8 日に公表しました、平成 19 年 3 月期（平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日）の中間および通期業績予想を、下記のとおり修正いたしますのでお知らせいたします。

記

1. 平成 19 年 3 月期中間業績予想（連結・個別）の修正（平成 18 年 4 月 1 日～平成 18 年 9 月 30 日）

(1) 連結業績

(単位：百万円)

	営業収益	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	8,000	2,000	1,200
今 回 修 正 予 想 (B)	12,000	2,900	1,400
増 減 額 (B - A)	4,000	900	200
増 減 率 (%)	50.0%	45.0%	16.7%
前中間期実績 (平成 18 年 3 月期中間)	9,353	1,958	1,140

(2) 個別業績

(単位：百万円)

	営業収益	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	6,100	1,000	500
今 回 修 正 予 想 (B)	6,100	1,700	1,000
増 減 額 (B - A)	—	700	500
増 減 率 (%)	—%	70.0%	100.0%
前中間期実績 (平成 18 年 3 月期中間)	4,729	606	357

(3) 中間業績予想修正の理由

①個別業績

買取債権回収高が当初予想どおりに進捗したこと、および再生企業の資産リストラに協力することを目的に、他の投資家と共同で匿名組合出資により取得していた不動産を売却したことから出資収益分配金約700百万円が発生したため、上記のとおり経常利益、当期純利益をそれぞれ上方修正いたしました。

②連結業績

個別業績と同様の理由に加え、他の投資家との共同債権投資を目的に、連結子会社において匿名組合出資を行い当社で管理回収業務を受託している債権のうち、大型の一案件についての回収が進捗したこと、また当社グループの出資持分により実質的に支配していると認められた匿名組合等を連結の範囲に含めることとしたため、上記のとおり営業収益、経常利益、当期純利益をそれぞれ上方修正いたしました。

2. 平成19年3月期通期業績予想（連結・個別）の修正（平成18年4月1日～平成19年3月31日）

(1) 連結業績

(単位：百万円)

	営業収益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	16,800	4,500	2,600
今回修正予想(B)	20,200	5,400	2,800
増減額(B-A)	3,400	900	200
増減率(%)	20.2%	20.0%	7.7%
前期実績 (平成18年3月期)	15,947	4,029	2,353

(2) 個別業績

(単位：百万円)

	営業収益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	12,800	2,200	1,200
今回修正予想(B)	12,800	2,900	1,700
増減額(B-A)	—	700	500
増減率(%)	—%	31.8%	41.7%
前期実績 (平成18年3月期)	9,903	1,928	1,137

(3) 通期業績予想修正の理由

中間業績予想修正に伴い、連結・個別業績を修正いたします。

なお、中間・期末の配当予想に関しましては、現時点での変更はありません。

3. 将来予測に関する記述について

本資料には、当社グループの意図、信念、現在及び将来の予測、または連結、個別の業績、財務状況に関する経営陣の意図、信念、現在及び将来の予測に関する記述が収録されております。記載されている歴史的事実以外の将来に関するすべての記述につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予測であります。かかる将来予測に関する記述は、将来の業績を保証するものではなく、潜在的なリスクや不確実性を伴うものであり、実際の業績は様々な要因により将来予測に関する記述とは大きく異なる可能性がありますのでご注意ください。

実際の業績に影響を与える潜在的なリスクや不確実性を伴う要因には、以下のようなものが含まれます。

- ・ 日本国内の経済環境の回復に伴う不良債権の流動化市場の収縮
- ・ 競争激化による特定金銭債権の買取価格の水準の高騰及び受託手数料の低下による利益率の下落
- ・ 回収期間の長期化による収益性の悪化
- ・ 債権管理回収業に関する特別措置法の改正
- ・ 好条件での資金調達先の有無及び金融政策等の変更による影響
- ・ 親会社である NIS グループ(株)の事業戦略及び経営成績等
- ・ 当社の利用する情報、基幹システム及びネットワークシステムの信頼性

ただし、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではなく、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響等によって、新たなリスクや不確実な要素が発生する可能性があります。

以 上